

第1回 地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名：グループホーム たてがみの郷

サービス種類： ☒ グループホーム ・ ☐ 小規模多機能型居宅介護

□地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護

□地域密着型通所介護 ・ □認知症対応型通所介護

日 時：令和7年5月21日（水） 9：30～10：30

場 所：会議室

出席者： 11 名

駐在所巡査長	1 人	知見を有する者	1 人
利用者家族	2 人	大田市職員	2 人
地域住民の代表	2 人	民生委員	0 人
事業所職員（職名：管理者、GH 主任、小規模主任）			3 人

1. 報告事項：登録実績と利用状況（R7.4月現在）

現在入居者数		18 名	新規入居者数	3 月	1 名
内 訳	男 性	4 名		4 月	0 名
	女 性	14 名	退居者数	3 月	1 名
	計	18 名		4 月	0 名

※最少年齡 82 歳 最高年齢 100 歳 平均年齢歳 92.1 歳 (4 月)

令和7年度 グループホーム（認知症対応型共同生活介護） 利用一覧

[illegible]

空室	0												
入居率	100%												
稼働率	97.8%												

地域別利用状況（令和7年4月）

波根	水上	長久	大田	川合	大屋	大森	三瓶	静間	温泉津
4人	1人	1人	4人	1人	1人	2人	2人	1人	2人

議 題：

2. 事業計画について

今年度の事業計画について説明を行った。

参加者から長期中期短期の期間設定について質問があり、理念の達成に向け、目標ごとの期間について伝えた。

3. 活動状況報告

①今年度で3年目となる朝波小学校児童下校時の見守り活動について報告した。

（利用者家族より）

Q：児童よりも利用者に目を配る必要もあるので大変だと思うが、良い取り組みをしていると思う。参加利用者の人数と人選について教えて欲しい。

A：毎週水曜日に活動しており、参加者は平均3名程度。当初は生活歴で登下校の見守りをされていた方を主に開始したが、現在はその限りではなく希望する方で参加して頂いている。利用者の楽しみや役割にも繋がっている。

（大津自治会長より）

Q：波根駐在所と一緒に見守りをしているのか、駐在所は活動を知っているのか。

A：波根駐在所としては車で広域の安全を見守りしている。たてがみの郷の活動は大変助かっておりこれからも協力をお願いしたい

（波根まちセンより）

Q：見守りに立つ場所は何か所あるのか

A：当初は小学校前とまちセン前の2か所で行っていたが、人員不足もあり交通量の多い学校前の横断歩道の一か所としている。

②運営推進会議検討項目

No.35：役割、楽しみごとの支援について

【評価基準】張り合いや喜びのある日々を過ごせるように一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている

→スライドをもとに事業としては利用者の嗜好や自宅での役割などを聴き取りし、花活、畑作業、季節に応じた作品作り、お茶入れ、洗濯物干し等の活動状況を報告した。

（家族からの意見）

面会時に十分な支援をしているのは分かっていたが、全体で様々な支援をしていることに感心した。特に食事の上げ膳据え膳を自分でしてもらっているのには驚いた。

No.48：本人が持つ力の活用

【評価基準】本人は自分なりに近隣や地域の人々と関わり交流することが出来ている
→花見で外出し、波根や地元の地域へ出掛けしている。また、市内の店舗へ買い物に行き、施設以外の住民の方との交流が図れている状況を報告した。

検討や意見は特になし。

③外部評価関連について

No.12 職員を育てる取り組み

【評価基準】代表者は管理者や職員一人一人のケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていく事を進めているか
→別紙年間計画に沿って、階層ごとの職員育成計画とその目的について説明した。
(波根まちセンより)

Q：全職員対象の研修回数はどのように考えているのか教えて欲しい。

A：法定研修は全職員が参加している。予算を計上して参加する研修は階層ごとに力向上を図る目的で計画しており、職員の意向を面談や評価で確認して進めている。随時案内のある研修は職員の希望を取って参加できるようにしている。

Q：人手不足と思うが職員が研修に参加する余裕があるのか。また、休みの日に参加させているのか。

A：人への投資が最も重要と考えているので、シフトをやりくりして参加してもらっている。研修は基本的に出勤扱いとしているが、短時間の研修については超勤の時間外などで対応する場合もある。

No.25 災害対策について

【評価基準】火災や自身、水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に着けるとともに、地域との協力体制を築いている。

→年間計画に沿って避難訓練（7月、11月）、災害の種類（洪水、地震）に応じたBCP訓練（6月、10月）予定を報告。前年度の地域との連携が図れなかった反省として今年度は地域の方に興味関心を持っていただくように法人種瀬悦を地域の方の避難場所として提供可能（20名程度）であることを伝え自治会での周知をお願いした。

(波根まちセンより意見)

グラウンドゴルフ場を避難場所としているが、足が悪い方もいるので施設を利用させてもらえることは有難い。中浜自治会は日曜日に防災訓練をしているので、施設の活用や今後の協力について意見を集約して相談に伺いたい。

4. その他

- ・新役員の紹介（小規模主任、大津自治会長、家族代表）
- ・運営推進会議の目的、当該会議での流れの説明

次回開催日：令和7年7月16日（木）9：30～10：30

第2回 地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名：グループホーム たてがみの郷

サービス種類： ☒ グループホーム ・ ☐ 小規模多機能型居宅介護

□地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護

☐地域密着型通所介護 ・ ☐認知症対応型通所介護

日 時：令和 7 年 7 月 17 日（木） 9：30～10：30

場 所：会議室

出席者： 8 名

駐在所巡査長	1 人	知見を有する者	1 人
利用者家族	1 人	大田市職員	1 人
地域住民の代表	1 人	民生委員	1 人
事業所職員（職名：管理者、GH 主任）			2 人

1. 報告事項：登録実績と利用状況（R7.6月現在）

現在入居者数		18 名	新規入居者数	5 月	1 名
内 訳	男 性	5 名		6 月	1 名
	女 性	13 名	退居者数	5 月	1 名
	計	18 名		6 月	0 名

※最少年齡 82 歳 最高年齢 100 歳 平均年齢歳 92.1 歳 (R7.6 月現在)

令和7年度 グループホーム（認知症対応型共同生活介護） 利用一覧

[illegible]

空室	0	29	3										
入居率	100%	95.5%	99.4%										
稼働率	97.8%	94.8%	96.6%										

地域別利用状況 (R7.6 月現在)

波根	水上	長久	大田	川合	大屋	大森	三瓶	静間	温泉津	富 山
4 人	1 人	1 人	3 人	1 人	1 人	1 人	2 人	1 人	2 人	1 人

3、活動状況報告

- ・ 5/17 (土) 海洋館アクアスへの外出行事
 - ・ 毎週水曜日の朝波小学校児童の下校時見守り活動を継続
- スライドで外出時の実際の利用者の表情などを見てもらい、活動を報告した。

(出席者からの意見)

- ・ アクアスまで休憩は無かったのか。
- 高速道路を利用したことで所要時間が短縮した。1 時間程度であったので休憩せずに行く事が出来た。帰りはご利用者の疲労もあり道の駅「ごいせ仁摩」で食事休憩をした。
- ・ 写真で見ると表情がよく分かる。高齢であるが皆さん元気で驚いた。
- 2 名は主治医から中止の指示あり不参加であったが、参加しなかった方へも昼食に行楽弁当を購入して楽しく食事を行った。

① 運営推進会議検討項目

No.35 : 役割、楽しみごとの支援

【評価基準】

張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている

→前年度月 1 回であった食事作りを今年度は週 1 回に増やした。献立内容をご利用者に考えて頂くように働きかけを行うことで、自身の役割として定着する方もいた。

- ・ 個々の生活習慣の情報をご家族や関係者から収集し、刺し子、散歩などを生活の中に取り入れている。すべての方に対して聴き取りが出来ていないので、継続して取り組んでいく。

→スライドをもとに事業としては利用者の嗜好や自宅での役割などを聴き取りし、花活け、畑作業、季節に応じた作品作り、お茶入れ、洗濯物干しなどの活動状況を報告した。

(利用者家族様からの意見)

料理もだが買い物にも利用者の方と一緒にいくのがすごいことだと思う。私の母親も車椅子で TRIAL へ一緒に買い物に連れて行ってもらって本当にありがたいと思う。

→施設に入ると施設の時間割に利用者の方をあてはめてしまう傾向にあるので、出来るだけ自宅での生活習慣が取り入れられるように努めていることを伝えた。

No.48：本人が持つ力の活用

【評価基準】

本人は、自分なりに近隣や地域の人々に関わったり交流することができている
→通いの場、近隣店舗への買い物、家族と外出などを通じて地域との交流が図れている。
特に意見なし

② 外部評価関連

※No.12 職員を育てる取り組み

【評価基準】

代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めているか

(内部研修)

- ・6/23 (月) B C P 研修 9 名参加

(外部研修)

- ・6/17 (火) ユニ・チャームオムツの当て方研修 2 名参加
- ・6/25 (水)、6/26 (木) 認知症実践者研修 1 名参加
- ・6/5 (木) 6/25 (水) チーム力向上研修【上級編】 1 名参加

(波根まちセン様からの意見)

Q：職員数が少ないと思うが、研修参加はどのように企画して復命はどのように行っているのか？

A：年間計画を立ててキャリアに応じて職員を研修に参加している。オユニ・チャーム研修後は夜間の失禁が続く方に対してパットの当て方を工夫して改善に繋げた。認知症実践者研修やチーム力向上研修は学んだ知識を現場で活かすまでがカリキュラムに組み込まれているので、現場やチームケア会議などで知識を発揮してもらうことを重要視している。部署会議などでも共有の時間を設けている。

※No.25 防災対策

【評価基準】

火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている

→7/16 (水) 夜間の火災発生時に転倒骨折した利用者の避難を想定した訓練を行ったことを報告した。

(波根まちセン様より意見)

マンネリ化しないように努めているのが良いと思う。

→引き続き、地域との災害協力をお願いした。

※NO. 39：居心地のよい共用空間づくり

- ・グループホーム共用スペース、洋室（空き部屋）を見てもらい評価をしてもらう

＊別紙添付あり

（出席者からの意見）

- ・外に面した掃き出しがあるが、出て行ってしまわれる方がいるのではないかな？

監視カメラなどがあるのかな？

→監視カメラはない。鍵が自分で開けられないようにできるが行っていない。安全確保が優先される場合は家族の方などの同意を得て一時的にかけさせてもらうことはある。

眠りスキャンという睡眠パターンを見る機会を導入しているので離床すればそれを把握することはできる為、安全対応を適時に行っている。

- ・本人の尊厳が重要視される時代だと思います。
- ・同じように部屋に洗面所とトイレがある施設を見たことがあります。

4、その他

特になし

次回開催日：令和7年9月17日（水曜日）9：30～10：30

第3回 地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名：グループホーム たてがみの郷

サービス種類：■グループホーム ・ □小規模多機能型居宅介護

□地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護

□地域密着型通所介護 ・ □認知症対応型通所介護

日 時：令和7年9月17日（水） 9：30～10：30

場 所：会議室

出席者： 7名

駐在所巡査長	0人	知見を有する者	0人
利用者家族	2人	大田市職員	1人
地域住民の代表	2人	民生委員	0人
事業所職員（職名：管理者、GH 主任）			2人

1. 報告事項：登録実績と利用状況（R7.8月現在）

現在入居者数		18 名	新規入居者数	7 月	1 名
内 訳	男 性	4 名		8 月	0 名
	女 性	14 名	退居者数	7 月	1 名
	計	18 名		8 月	0 名

※最少年齢 82歳 最高年齢 100歳 平均年齢歳 91.9歳（8月現在）

7月 新規利用者：施設から1名、終了者：入院の方1名

8月 新規入居者：在宅から1名、終了者：なし

令和7年度 グループホーム（認知症対応型共同生活介護） 利用一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援2	0	0	0	0	0								
	0	0	0	0	0								
要介護1	9	7	7	7	7								
	270	188	207	214	214								
要介護2	7	7	7	8	7								
	198	217	195	199	217								
要介護3	1	1	2	2	2								
	30	31	60	62	62								
要介護4	1	1	1	1	1								
	30	31	30	31	31								
要介護5	0	1	1	1	1								
	0	31	30	31	31								

計	18	18	18	19	18								
	528/540	529/558	522/540	537/558	555/558	/540	/558	/540	/558	/558	/522	/558	
入院	12	4	15	9	3								
空室	0	29	3	12	0								
入居率	100%	95.5%	99.4%	97.8%	100%								
稼働率	97.8%	94.8%	96.6%	96.3%	99.46								

地域別利用状況 (R7.8 現在)

波根	久手	水上	長久	大田	川合	大屋	大森	鳥井	静間	温泉津	富山
3 人	1 人	1 人	1 人	4 人	1 人	1 人	1 人	1 人	1 人	2 人	1 人

3、活動状況報告 *以下はスライドをみながら説明

- ・8/23 (土) 夕涼み会
- ・夏休み明け9月から朝波小学校児童の下校時見守り活動を再開
- ・利用者、職員とも世界アルツハイマーデーの展示物作成協力

(波根まちセンからの意見)

Q：行事に家族は参加しているのか。家族の方に知ってもらうこと、関わってもらうことが大切ではないだろうか。

A：行事は呼びかけているが参加される家族は少ない。個別の外出や面会は多くなったので、行事にも無理なく参加出来るように案内や情報発信を今後も行う。

③ 運営推進会議検討項目

No.35：役割、楽しみごとの支援

【評価基準】

張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている

→個々の生活習慣の情報をご家族や関係者から収集し、刺し子、散歩などを生活の中に取り入れている。すべての方に対して聴き取りできるように継続して取り組んでいく。

No.48：本人が持つ力の活用

【評価基準】

本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わり交流することができている

→通いの場への参加、近隣店舗への買い物、家族と外出などを通じて地域との交流が図れている。また、7月に外部のボランティアに依頼し、歌や踊りを披露してもらった。

④ 外部評価関連

※No.12 職員を育てる取り組み

【評価基準】

代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めているか

- ・ 7/1（火） 8/19（火） 眠りスキャン研修 1名参加
* 参加眠りスキャンを取り入れているが、その有効活動について学んだ。
- ・ 7/31（木）～8/1（金） 認知症実践者研修 1名参加
* 認知症介護のスペシャリストを養成するカリキュラムでステップアップあり。
- ・ 8/22（金） 生産性向上研修 1名参加
* 今生産性向上がいわれているが、介護現場でも求められている。

（波根まちセンからの意見）

Q：眠りスキャンとはどんなものか。最近取り入れたのか。

A：眠りスキャンは令和3年から少しずつ台数を増やして利用している。利用者の睡眠状態や心拍などをデータ化し生活改善につなげるものだが、覚醒、離床なども分かるためセンサー目的での使用に偏る傾向がある。虐待や身体拘束にもなりかねない為、正しい使い方や活用について研修で学んでいる。

（ご家族からの意見）

Q：生産性向上とは何ですか。

A：質の高いケアを行う為に無駄を省き、出来た時間を利用者の直接支援に充てたり根拠書類の作成などの間接業務に充てたりと、本来行うべき介護の仕事に専念できるように改善していくことが介護分野における生産性向上と考えている。研修を通じて介護機器やテクノロジーの活用なども取り入れた具体的な手段を勉強中である。

※No.25 防災対策

【評価基準】

火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている

→11月に日中の避難訓練予定を報告した。また、施設を地域の方の避難場所として提供可能（20名程度）であることをあらためて伝え自治会での周知をお願いした。

（波根まちセンより意見）

足が悪い方の施設利用は有難いので、施設の活用や協力について住民の方にも意見を聴取していきたい。

4、その他

7/24（木）からミャンマー出身の特定技能実習生1名が勤務開始
大田市よりコロナ流行拡大に伴い注意喚起のレジメ配布あり

次回開催日：令和7年11月19日（水曜日）9：30～10：30